

**令和8年度スタート**

入学式・対面式を無事終えて、3学年が全員揃っての新年度が始まりました。鹿児島中央高校進路指導部では、毎月の「進路指導室だより」をとおして、みなさんに進路に関する様々な情報を提供していきます。また、不定期ではありますが、各学年が必要とする進路情報も学校・学年のクラスルームで流しますので、こちらも是非、時間があるときに目をとおして下さい。

さて、みなさんは「最高学府」という言葉をご存じでしょうか？最高学府とはある地域や分野で最も高い水準の教育・研究を行う学校や教育機関のことで、鹿児島県では「鹿児島大学」がそれに当たります。今回は、その鹿児島大学の学長が述べた入学式での告示を紹介したいと思います。理由は先ほど述べたように、鹿児島県の最高学府であることと、本校の卒業生が最も多く進学している大学だからです。告示は鹿児島大学のホームページに掲載されていますので、興味のある人は是非、覗いてみて下さい。さらに自分が希望する大学がイメージできている人は、その大学の学長の入学式のメッセージ（大学によっては学部長のメッセージがある大学もあります。）に目をとおしておくことをお勧めします。志望理由を書く際の大きなヒントがそこには沢山あるからです。少し前置きが長くなりました。以下一部を引用します。

さて、皆さんの中には鹿児島大学が第一志望ではなかった方もおられるかも知れません。しかし、そのことを理由に大学生生活を空虚に過ごして欲しくないと思います。もし、何かに未練があったら、過去を振り返る気持ちが強いのなら、今日で終わりにしてもらいたいと切に願います。悔しい思い、落ち込んだ経験は、何度でも挑戦したり、切り替えたりできる力を身につけることにつながります。自分の心の中に未練などがある方は、それを「バネ」にして欲しいからです。ずっと思い通りに、人生を歩める人はそう多くいません。今日から始まる大学生活が、とても大切な時間なのです。しっかり勉強して、卒業するときは顔を上げ、自信をもって卒業して欲しいと思っています。

このメッセージには、中央高校生にも当てはまる要素があると思います。高校入試で志望を変更した、あるいはクラス替えで自分が思うクラスと違った。現時点で納得いかない部分もあるかも知れませんが、少なくともその決定には自分の意思も反映されていたはずで、そう

であるならば新しい環境で、自分の決定が正しかったことを証明するための毎日を、過ごした方が絶対いいに決まっています。終わったことをあれこれ後悔する時間で、自分を一步押し出せるからです。さらに一部引用します。

皆さん一人ひとり、自分と同じ人間は誰ひとりいません。その違った部分について、より尊重するためには、相手をより理解しようと努力し、また、自分のことを理解してもらおうとする努力が必要です。異なる人と書く「異人」は、過去には「外国人」をさす差別的な言葉として使われた時代もありますが、国際社会を生きる皆さんには、人と人の繋がりとという観点で、「いじん」という時には、偉大の「偉」、優れたという意味の「偉人」という言葉を使ってもらいたいと思います。

ご存じのとおり、中央高校のある加治屋町は薩摩の偉人を数多く輩出した場所です。この場所で学ぶことを自分への使命だと思い、お互い「和して同ずる」ことなく共励切磋していきましょう。

**< R7 鹿児島中央 主な国公立4年制大学合格実績（既卒含） >**

大	学	名	R7	R6	R5
東	北	大			1
筑	波	大	1		1
東	京	大			1
東	京	学	1		1
京	都	大			1
神	戸	大	1		1
広	島	大	7	4	4
九	州	大	5	5	2
九	州	工	6	4	4
福	岡	教	5	4	4
熊	本	大	11	15	10
鹿	児	島	100	112	125
国	立	大	160	169	198
大	阪	公	1	1	2
下	関	市	4	11	3
北	九	州	2	6	5
長	崎	県	4	1	5
熊	本	県	3	4	4
公	立	大	30	41	30

なぜ、今学校で学ぶのか。

その問いに対して「あなたの人生を豊かにするため」であると私は答えます。「また堅苦しい話か」「そういう答えを求めてるんじゃないだよ」そう思って、この紙をくしゃくしゃに丸めようとしているそのあなた、そもそも読む気すらなくて机の奥に紙を押し込んだあなた、まさに、そんなあなたの人生を豊かにできるのが学校なのだということを伝えたくて、今この文章を書いています。怪しい勧誘ではありません。数年前までみなさんと同じ高校生だったひよこ社会人の私が少しばかり偉そうなことを書き綴りますが、もしよければ最後まで読んでくれると嬉しいです。

そもそも、学校を意味する英語の school の語源は、古代ギリシャ語で「暇」を意味する「スコレー」にあります。現代の過密なスケジュールに追われるみなさんからすれば、学校が暇だなんて冗談じゃないと思うかもしれませんが、これは、生きるための労働に追われず、自分を磨くために自由に使える時間という意味です。つまり学校生活は、すごく贅沢な人生の準備期間なのです。この贅沢さの一つに、情報の入り方があります。大人になると、情報は自分で掴みに行かなければ手に入りません。自分を守るための知識も、社会の仕組みも、自ら動かなければ誰も教えてくれないし、情報を得るために高いお金を払うことだってあります。でも、みなさんはどうでしょうか。教室に座っているだけで、教科書の内容が授業として流れ込み、プリントが配られ、黒板には掲示物が貼られ、さらには先生の言葉を通して、ありとあらゆる所から勝手に情報が流れ込んでくるのです。これほど贅沢な環境は、後の人生では二度とありません。目の前の情報を知ろうともせず、自分には必要ない、これは受験で使わないと決めつけて放棄するのではなく、この情報のシャワーを存分に浴びながら、高校生の特権を目一杯味わってほしいと思うのです。

ここで、ついついやってしまう宿題への言い訳について、教員らしいことを言いたいと思います。「部活があっただけできなかった」のは優先順位を間違えているだけ。「終わらなかった」のは計画性がない証拠。「面倒でやらなかった」のは自分に甘いだけだし、「やったけど忘れた」のは準備不足。これらは単なる宿題の話にとどまりません。社会に出れば、私たちは信頼できる人と仕事をしたいし、そういう人と付き合いたいと思います。優先順位が付けられない、計画性がない、嫌なことからすぐ逃げる、準備不足でミスをする。そんな人を、あなたは心から信頼できるでしょうか。宿題を期限内にこなすという基本的な行動は、実は他者からの信頼を勝ち取る練習なのです。

学校で起きることは、すべてが人生の練習です。授業で発言するのは、自分の考えを言語化する練習。納得いかない校則に縛られるのは、理不尽に耐える、あるいは、その現状を論理的に変えるための交渉の練習。気の合わない人とのグループワークは、人付き合いの練習。毎日学校に来ることさえも、健康を管理する練習。分からないことが分かるようになる経験も、学ぶ楽しさそのものを味わう練習です。中には意味がないと思えることもあるでしょう。でも、それに気づいて自分なりに意味を持たせるのも練習だし、意味が分からなくてもとりあえずやってみるのも一つの練習です。(何でもかんでも練習、練習、と言い過ぎると、逆に嫌になるかもしれませんが…。)

学校は、勉強だけをするところではありません。あなたがもし、この紙をまだくしゃくしゃにしていないのなら、明日からの学校生活を、自分をアップデートするための練習場所へと定義し直してみてください。勝手に情報が流れ込んでくる今のうちに、その中から自分の人生を豊かにするための世界の欠片を見つけ、吸収する練習をしてみてください。自らつかみ取る全ての経験が、いつかあなたがこの人生でよかったと誇れる未来を彩るための武器になるはずです。豊かな人生は、日々の「練習」の果てに、あなた自身の力で築き上げていくものなのですから。